泣き虫な魔法使い。

ゆう

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
泣き虫な魔法使い。

【Ｎコード】
Ｎ５８３８Ｚ

【作者名】
ゆう

【あらすじ】
持ち前の運の悪さを発揮し、一晩で家なき子になってしまった少女、ルイ。
落ち込んでてもしょうがないんで、まあ軽く世界をぷらぷらしてる間に
、人を救っちゃったりする話です。
いろいろと間違いどころが多いお話になりますが、よろしくお願いします。

プロローグ

プロローグ

夢を見た。

赤色に、彩られた世界。
自分を嗤う人々。

そんな中で、ふと、青年の背中が視界に映った。
血に染められた道を、ゆっくりと歩いていく彼。
見慣れた黒髪が、周囲を染める紅のせいで、異様に輝いて見えた。

そう、彼は大好きだった人。
・・・でも。

『助けて』
小さな声は、きっと彼に届かない。

『行かないで』
伸ばした手は、きっと彼に届かない。

それなら、こんな声なんていらない。
こんな体なんていらない。

・・・呼吸なんて、できなくていい。

プロローグ（後書き）

えーっと、ゆうです。はじめまして！

初心者がプロットなしで書いてみたものなので、
気楽に見ていただけるとうれしいです。

ちなみに、プロローグしょっぱなから重く始まりましたが、本編は
思いっきり軽いです。あほです。

よろしくお願いします！

第一話「家、燃えちゃいました」

「真っ赤だなー」

目の前でごうごうと音を立てる炎を見ながら、あたしはのんきにつぶやいた。

そうだねえ、とのんびりうなづきかけたおばさんが、我に帰って叫ぶ。

「いや、真っ赤だなーじゃないでしょ！ルイちゃん、あんた大丈夫！？なにも、怪我してない？」

「あ、はい。あたしは怪我してないよー。ぜんぜん平気ー。まあ、家は、もう跡形もないけどね」

冗談っぽく言ったけど、家がもう跡形もないっていうのはほんとうだ。

「ここらへんに、腕の立つ魔術師でもいれば、この火を消すくらいたやすいことなのに・・・」

人のことなのに、心底悔しそうに言うおばさん。その顔を見やれば、なんと、うっすらと目じりに涙を溜めていた。

それを見て、あたしは初めてぎょっとした。

「や、やだな、おばさん。泣かないで。家なくなったくらい、平気だって。お金は少しくらいならあるし」

「でも、そのお金が底ついたらどうするの？」

「そんときは、努力と忍耐でどうにかする！」

あたしは、涙ぐむおばさんに向かってガッツポーズを作った。おばさんは、そんなあたしを見て、何を思ったか、いきなりつぶやいた。

「こうなったら・・・あたしが、ルイのために身体を売るとかでもなんでも・・・・・・」

・・・・・・・なんていうか、突っ込みどころが多すぎて、突っ込めなかったけど。

おばさん、あなたもう五十歳だから。

結局あたしは何も言えずに、黙って炎の方を眺めた。

「・・・真っ赤だね」

十七歳のあたし、ルイは、本日、家なき子になりました。

第一話「家、燃えちゃいました」（後書き）

かなりマイペースな感じで始まりました。ルイちゃんはたいていこんな子です。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n5838z/

泣き虫な魔法使い。

2011年12月19日17時55分発行